

**Point**

Set rs = cn.Execute "tbl101"  
「tbl101」テーブルの内容をオブジェクト変数 rs に取得します。  
Execute メソッドを使用した場合は、Open メソッドは使用しません。出力の方法は RecordsetTest プロシージャと同じです。

**注意**

Execute メソッドで取得したレコードセットは、いずれも前方スクロール及び読み取り専用になります。

カレントデータベースの「tbl101」テーブルに接続する流れを確認します。

```
Sub RecordsetTest2()
    Dim cn As ADODB.Connection
    Dim rs As ADODB.Recordset
    Set cn = CurrentProject.Connection
    Set rs = cn.Execute "tbl101"
    Debug.Print rs!従業員 ID, rs!姓, rs!名, rs!時給
    rs.Close
    Set rs = Nothing
    cn.Close
    Set cn = Nothing
End Sub
```

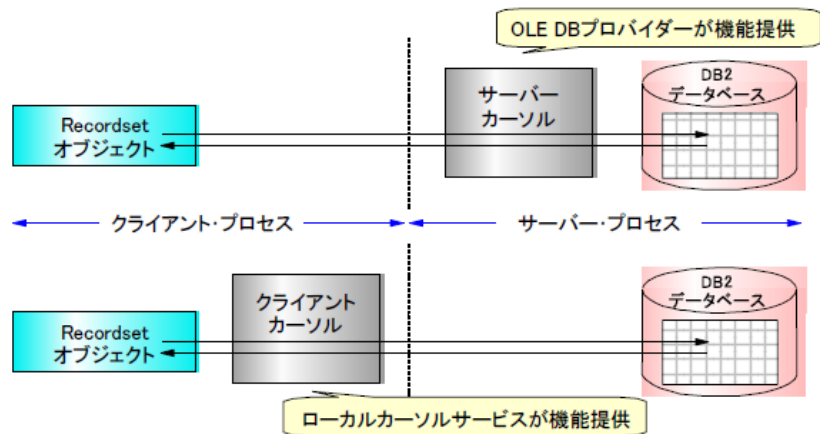
**Command オブジェクトの Execute メソッド**

Command オブジェクトはデータベースに対して実行するコマンドを定義するオブジェクトです。Execute メソッドを利用してテーブルを参照したり、クエリや SQL ステートメントを実行してレコードセットを取得することができます。

構文 : Set recordset = command.Execute

**カーソルサービスとカーソルタイプ****カーソルサービス**

レコードの追加や変更などの処理をサーバー側で行うのか、クライアント側（ローカル）で行うのか、カーソル位置をどちらに置くかの設定です。

**サーバーカーソル (adUseServer)**

プロバイダーが機能を提供し、データソース（サーバー）側で処理を行います。Access データベースに接続するときのデフォルトの設定です。

利点はカーソル内の一部のデータのみアクセスする場合、データ参照時にはじめてデータ取得処理が行われるため、最適なパフォーマンスが得られます。他のユーザーがデータソースに行った変更を検出することができ、複数ユーザーが行うデータ更新処理を効率的に制御することができます。

**クライアントカーソル (adUseClient)**

Microsoft Data Access Components の1構成要素であるローカルカーソルサービスが機能を提供し、クライアント側で処理を行います。

利点は全てのデータをクライアント側にキャッシュするため、その後はネッ

**Point**

動的カーソル (adOpenDynamic) とキーセットカーソル (adOpenKeyset) はスタンドアロン (パソコン1台だけ) の環境の場合、使用しません。

トワークトラフィックなしにデータ操作を行うことができます。OLE DB ドライバが提供するサーバー カーソルでは、サポートしていない ADO の機能を多く利用できます。

■ **カーソルタイプ**

データベースで、他のユーザーが変更・追加・削除・更新したレコードの取扱い方法についての設定です。

カーソルタイプを指定するには、Recordset オブジェクトの CursorType プロパティを使用します。

カーソルタイプ	説明
動的カーソル adOpenDynamic	レコードセット内でカーソル移動ができ、かつリアルタイムにレコードの追加、変更および削除ができる。 他のユーザーによるレコードの追加、変更、および削除も参照可能。
キーセットカーソル adOpenKeyset	動的カーソルと同様にレコードセット内で自由にカーソル移動ができ、かつリアルタイムにレコードの追加、変更および削除ができる。 他のユーザーが変更したデータは参照できるが、他のユーザーが追加、削除したレコードは参照できない。
静的カーソル adOpenStatic	レコードセットの静的なコピーを作成して使用されるカーソル。レコードセット内での自由なカーソル移動ができ、レコードの追加、変更、および削除ができる。 他のユーザーによるレコードの追加、変更および削除は参照できない。クライアントカーソル使用時の既定のカーソルタイプ。
前方スクロールカーソル adOpenForwardOnly	前方スクロールのみ可能。 その他の特徴は、静的カーソルと同じ。サーバーカーソル使用時の既定のカーソルタイプ。

■ **adOpenStatic (静的カーソル) の指定**

静的カーソルにすることで、レコードが前方・後方に移動ができます。Recordset オブジェクトの Open メソッドの引数 CursorType に adOpenStatic を指定します。

▶ **カレントレコードの移動方法**

レコードセットを開いた直後は、カレントレコードはレコードセットの先頭のレコードに設定されています。カレントレコードの移動は Move 系メソッドで行います。

メソッド	説明
MoveFirst	先頭レコードに移動
MoveLast	最終レコードに移動
MoveNext	次のレコードに移動
MovePrevious	前のレコードに移動
Move 番号	引数「番号」に指定した数だけ移動